

晩夏の小樽へ、そして『2017 小樽・鉄道・写真展』へようこそ。北海道最古・日本で3番目に長い歴史を持つ鉄道、旧手宮線。137年の歴史を宿し、この街の昔と今が一本のレールでつながる場所を舞台に開かれる野外写真展に、今年も写真を持って帰ってきました。

一昨年から、列車や飛行機、道端や宿の窓越しや、窓に映る旅の景色を撮り続けています。旅人にとってほんの一瞬ながらも、そして厚さ数mmのガラスで隔てられながらも、その街、その土地に触れていく。その連続で旅はできている。「途中があるからこそ、記憶はつながる」……そんな想いで作品や空間を作っています。今年4月に札幌芸術の森美術館で開催された企画展『旅は目的地につくまでがおもしろい。』にも、そのシリーズを出展しました。

ここ・旧手宮線にもかつては列車が走り、旅人が窓の外を眺めている姿があったことでしょう。線路沿いに残る倉庫の壁や石垣、そして家並み街並みも、SLの速さであっても、きっとあつという間に過ぎていったことと思います。それでも、窓に映った景色の記憶は、旅人たちの奥底に残り続けたはずです。

いつか、誰かがきつと見ていた景色。

窓ガラスのこちらとあちら、それぞれから見える景色があるように。そして、時は動き、風が吹き、水面はたゆたい続けて、同じ場所であっても景色は変わっていきます。

その時、その瞬間、そこに立っていた人は、何を想っているんだろう。その一瞬に感じた想いが、今も、その先にもつながり続けていますように。

写真は、誰かが見ていた記憶を自分の記憶にして、そして、誰かと共有することができるメディアです。

天井も壁もない。小樽の風に吹かれながら写真を見る。他のどこにもないこの場所で、近くから、遠くから来て下さったあなたは、何を想っていますか。

写真とはこんなにも自由なものなのかと感ずることができるこの空間に集まる誰かの記憶とあなたの記憶を、願わくば、誰かとも共有してもらえたら幸いです。

そして、この景色もまた、いつか誰かの記憶につながっていきます。

2017.8.28 ウリュウ ユウキ

1976年生まれ。個展・グループ展の他、デザインの仕事も。

現在開催中の「札幌国際芸術祭(SIAF)2017」で、札幌市電を使ったプロジェクトの企画や「市電放送局JOSIAF」のMCを担当。

今年10月、札幌の2会場(ギャラリー犬養/茶廊法邑)で個展を同時開催する。

 <http://www.yuukiuryu.com/>  @yuukiuryu  /yuukiuryuphoto

©2017



2017 小樽・鉄道・写真展
2017.8.28-9.10
旧手宮線跡地(北海道小樽市)

いつか誰かが
見ていた景色
Someone looking out that before.

ウリュウ ユウキ
Yuuki URYU

